

地域産業の発展に向けた知財戦略

会社名 株式会社詫間宝石彫刻
 所在地 山梨県甲府市丸の内3-26-1
 従業員 6名
 資本金 -
 売上高 -
 業種 水晶彫刻品および宝飾品の製造販売

詫間宝石彫刻
 TAKUMA GEM CARVING

支援を受けるにあたって掲げた事業上の目標

Before

- 山梨の伝統産業である宝飾について、発展・普及を実現していきたい。
- 宝飾ビジネスの強化に際して、既存のBtoBだけでなくBtoC的なモデルの構想も含めて検討していきたい。

支援を受けてできるようになったこと

After

- 今後展開していくビジネスモデルやブランド戦略を精査できたことに加えて、それを支える知的財産として意匠と商標を組み合わせた戦略構築を実現。
- 組み立てた知財戦略を実行していくために必要な知財意識(海外出願、営業秘密管理、契約等)も定着。

今後の事業展開の展望

Future

- ビジネスとして拡大させていくためのブランドストーリー作成および発信。
- 権利化を進めながら、ブランドを構築していきたい。

重点支援を受けた事業や商材



宝飾は山梨県の伝統産業である。その中で当社は貴石を用いた彫刻作品からジュエリーまで手掛けてきている。

特に彫刻技術、研磨技術、地金加工に強みがあり、独創性を有する。

こうした当社の強みを活かしながら、山梨県の伝統産業の発展・普及を目指し、既存のBtoB事業だけでなく、BtoC事業(最終ユーザー向けルースやピアス・イヤリング等)をも志向するようになった。

重点支援を実施するにあたって整理した課題



取り組んだ課題	課題に取り組んだ背景・理由
ビジネスモデル検討	今後BtoC型のビジネスにも取り組んでいくにあたり、そのビジネスモデルを明確にしたうえで、現在不足している要素を洗い出していく必要がある。
知財戦略構築	これまでとは異なる事業展開に踏み込んでいく際に、一層知財面での取組が重要になるため、現段階からの確かな知財戦略を考えておくことが重要である。
ブランド戦略検討	新たな事業へ取り組んでいくにあたり、自社および製品等のブランドを整理し、発信するための方策を練る必要がある。
知財管理体制整備	ビジネスを推進していくにあたり、検討した知財戦略を実行していくための体制整備・知識獲得が必要である。
技法の体系化・承継	強みを維持していくために、現在の作業工程における課題やノウハウ等を見える化して承継していく仕組みが必要である。

重点支援を通じて受けた支援と支援を通じてできるようになったこと



支援を受けた事項	支援を通じてできるようになったこと	活用専門家
ビジネスモデルの検討	<ul style="list-style-type: none"> これから目指していくビジネスの構造を整理 株式会社化も実現し、ビジネス拡大に向けた準備へ着手 	<ul style="list-style-type: none"> 中小企業診断士 ブランド専門家
知財戦略・ブランド戦略	<ul style="list-style-type: none"> 意匠および商標を中心として、知財MIXによる戦略的な活動を実施 あわせて、このような知財を活用して実現していくブランドストーリーを策定 	<ul style="list-style-type: none"> ブランド専門家 弁理士
知財管理体制	<ul style="list-style-type: none"> 契約関係、営業秘密管理、海外出願等、知財戦略を支える活動全般について基本的な知識を習得 	<ul style="list-style-type: none"> 知財戦略AD 中小企業診断士

支援チーム紹介

リーダー専門家:中小企業診断士 東條 寮
 活用専門家:弁理士、ブランド専門家(複数)、知財戦略AD
 知財総合支援窓口担当者:山梨県知財総合支援窓口 近藤 功
 PO(プログラムオフィサー):中 隆廣